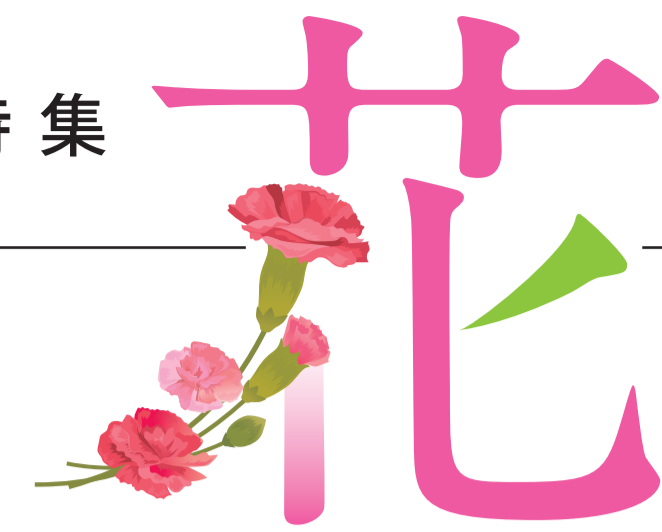


特集 花のある暮らしで心豊かに! ~ JAふじ伊豆管内は花の産地 ~



Life With Flowers

管内は全国に誇る花の産地
生産される花の品目は
25品目以上!

カーネーション、キンギョソウ、ストレリチア、アガパンサス、マーガレット、花麦、キンセンカ、ハナショウブ、シキミ... 皆さまご存じの花の名前も多いと思います。当JA管内で生産される花は25品目以上で全国に誇る花の産地です。特にカーネーションは一大産地で、静岡県のカerneーション生産量の9割を東伊豆町と河津町で占めています。

私たち営農アドバイザーは生産者の園地を巡回し、消費者ニーズをとらえた栽培品種や新しい生産技術・資材を生産者に提案するほか、生産者の要望を市場に伝えるなど、消費者と生産者の橋渡し役も担っています。

今後は、新品種の市場出荷への研究や皆さまのお近くのファーマーズマーケットでの花卉販売の強化などに取り組んでいきます。



JAふじ伊豆 花卉担当
トップ営農指導員
たむら まさひろ
田村 優



右記でご紹介の花の生産地MAP

カーネーション

県内生産量シェア9割
地域で発見の品種も栽培

東伊豆町、河津町のカerneーションは10月から5月末まで出荷され、4月下旬から母の日にかけて出荷ピークを迎えます。1つの茎に一輪咲く「スタンダード」と枝分かれして複数の花が咲く「スプレー」があり、定番のピンク、赤、白をはじめ、緑や紫などの単色、黄色に赤の縁取りが入る複色など、カラーバリエーションも豊富です。形もギザギザの花びらや星形などさまざまあります。河津町の生産農家で発見された「スタージャージーテッシノ」と東伊豆町で発見された「スターチェリーテッシノ」も人気!年間出荷量は約200万本です。



赤色のカーネーションの花言葉は「母への愛」

Carnation



河津町で発見された
「スタージャージーテッシノ」



東伊豆町で発見された
「スターチェリーテッシノ」



花の生育を確認する山田さん

生産農家に聞く

やまだ ひろし
山田 弘志さん(56)

- 静岡県花卉園芸組合連合会カーネーション部会 部会長
- JAふじ伊豆 伊豆太陽地区本部大田カーネーション共販部会 部会長

山田さんは東伊豆町で3代続くカーネーション農家で、約40アールのビニールハウスで年間60万本を出荷しています。今年2月には第38回静岡県花の展覧会で「ブラテリア」という緑色のスタンダードカーネーションで3度目の「農林水産大臣賞」を受賞しました。

コロナ禍で個人需要が増えているというカーネーション。「皆さんの心を癒やすことができうれしい」と語る山田さん。日々の栽培を振り返って「花は人生の節目を飾り、感謝や好意を伝えるプレゼントとして使われます。皆さんを笑顔にできるように生産に励みたいですね」と笑顔で話しました。



ストレリチア

1つのつぼみで
複数回花が楽しめる!
華麗な姿で別名「極楽鳥花」

管内では南伊豆町大瀬地区を中心に栽培され、7、8月を除いてほぼ周年出荷されています。丈が高く優雅な姿から各種イベントやお祝い事、葬祭用途まで幅広く使われます。1つのつぼみから何度も花を咲かせるのが特徴で、一度花弁が枯れてもつぼみから花弁を引き出せばまた次の花が楽しめます。故に花持ちが抜群です。年間出荷量は約21万本です。



鳥のような優雅な姿で高級感あるストレリチア

Strelitzia



ビニールをかけ
丁寧に箱詰めする出荷作業



人の背丈ほどあるストレリチアを
収穫する山本さん

生産農家に聞く

やまもと みちお
山本 道男さん(75)

- JAふじ伊豆 伊豆太陽地区本部南中支店 ストレリチア部会 部会長
- JAふじ伊豆 伊豆太陽地区本部南伊豆町 花卉園芸組合 副組合長

山本さんは定年退職後にストレリチアの栽培を始めました。ストレリチアのほかに、野菜や柑橘なども栽培し、直売所に出荷しています。

「ストレリチアは、手間がかからず育てやすいです。ハウスでも露地でも栽培でき、魅力的な花です。花言葉は「輝かしい未来」です。若い人にもぜひ栽培に挑戦してほしいです」と語りました。



アガパンサス

管内は八重咲きの貴重品種
花言葉は「恋の訪れ」「ラブレター」など

南伊豆町入間地区の段々畑で生産されるアガパンサス。同畑は「静岡県棚田等十選」にも選ばれ、かつては6月の開花時期に500枚の畑がアガパンサスのスカイブルーに染まり絶景でした。現在は生産者の高齢化により生産量が減少し、大変貴重な花です。

入間地区のアガパンサスは八重咲き品種で、花が完全に開かない袋咲きが特徴です。アガパンサスはギリシャ語で「愛の花」。花言葉も「恋の訪れ」「ラブレター」など。年間出荷量は約4万本です。



爽やかなスカイブルーのアガパンサス

Agapanthus



最盛期には1日2,000本を出荷



1本1本を大切に摘み取る収穫作業



元気に除草作業をする
93歳のトキエさん

生産農家に聞く

とのおか しげのり
外岡 茂徳さん(72)

- JAふじ伊豆 伊豆太陽地区本部南中支店 アガパンサス部会 部会長

外岡さんは、93歳のお母様・トキエさんとアガパンサスを生産しています。露地栽培で畑の除草と古芽の除去が主な手入れです。出荷は6月中旬の2週間に集中し、開花時期につぼみを割り開花を促して形を整える作業を慎重に行います。

「生産者の高齢化で出荷量が減少しましたが、南伊豆町を代表するともかれんで美しい花です。花言葉が示すように大切な人へのプレゼントにも最適。絶やさずに生産を続けたい花です」と語りました。



皆で実践 国消国産 協同の和

JAふじ伊豆トピックス

かき 地元の花弁栽培学ぶ



マーガレットの収穫を体験する生徒たち

南伊豆町にある静岡県立下田高校南伊豆分校の2年生7人が3月7日、同町伊浜にあるマーガレットハウスを訪れ、栽培を学びました。

JA営農アドバイザーが地元マーガレットの特徴や現状を説明。生産者からは収穫方法などを教わり、地元の花弁栽培への理解を深めました。

「はじかれ野菜スープ」完成



全4種を開発した「サルベジ」の岡本雅世さん

地域農業振興チーム「サルベジ」は、当JA特産「箱根西麓三島野菜」のロス野菜を活用した「はじかれ野菜スープ」を開発しました。

商品は、レトルトで化粧箱入り1種類と冷凍が3種類で、JAファーマーズマーケット「みしまるかん」などで販売予定です。

ミニトマト暖候期の品質維持へ



生産者らが見本のミニトマトで規格を確認

伊豆の国果菜委員会は県内のミニトマト生産量を誇ります。

4月4日には暖候期の目ざろえ会を開催。着色基準などを確認し、品質維持を図りました。同委員会の「伊豆の国ミニトマト」は、量販店や「農の駅 グリーンプラザ伊豆の国」などで販売しています。

農産物品質向上へ講習会開く



出荷規格を説明するJA営農アドバイザー

あいら伊豆地区は3月13日、直売所「いで湯こ市場」出荷者と新規就農者を対象に講習会を開催し、18人が参加しました。

春まき野菜の有望品種や出荷規格などを説明し、品質向上を図りました。地場農産物が豊富な「いで湯こ市場」をぜひご利用ください。

ぬまづ茶新茶まつり開催中!



沼津市制100周年を記念した特別茶缶

当JAは、6月9日まで「ぬまづ茶新茶まつり」をなんすん地区管内で開催しています。

本年度は、沼津市制100周年を記念した特別茶缶で「おすすめ新茶」を5月2日から発売し「沼津茶」をPRします。生産者自慢の逸品をご自宅や贈答品でぜひお楽しみください。

本年産水稲栽培始まる



火入れ式で稼働中の安全を祈願するJA職員

「ごてんぼこひかり」をはじめとする米の産地・御殿場地区は3月24日、JA育苗・種子センターの育苗施設で火入れ式を行い、本年産水稲苗の育苗を始めました。

5月19日まで稼働し、播種枚数は「コシヒカリ」や「峰の雪もち」など、育苗箱計8万枚を予定しています。

園児にチュウリップ苗贈る



おもちゃのお金を渡して苗を受け取る園児たち

富士地区直上市「ちょっとよって鷹の市」は3月2日、見学と買い物体験に訪れた富士市立鷹岡保育園の1・2歳児22人にチュウリップ苗を贈りました。

園児たちはおもちゃのお金と引き換えに苗を受け取り、同産直市を見学。生産者との交流を深めました。

地域貢献へ社協に収益金寄付



太田精一会長に収益金を手渡す清信昭常務(左)

葬祭事業を行う富士宮地区の「おもいやり富士宮会館」は3月14日、人形供養祭の収益金22万1,000円を富士宮市社会福祉協議会に寄付しました。

地域に寄り添う協同活動を目指し、毎年地域住民向けに人形供養祭を開いて収益金を寄付しています。